

(様式2)

平成29年度全国・東京都・荒川区学力調査に関する結果分析シート

学校名 荒川区立第三中学校

調査名	分析	実施結果（正答率）	
		区	自校
区 学 力 調 査 全 学 年	<p>全教科で区の正答率を上回った。各教科分析を示す。</p> <p>【国語】（1年）書く能力、読む能力、言語についての知識・理解・技能が昨年度より大きく上回った。（2年）<u>作文を書く能力を一層伸ばす必要がある。</u>（3年）「聞く」項目、「漢字を書く」項目が全国平均を下回っており漢字指導が課題である。2年次に低かった<u>説明文の読解</u>については克服した結果だった。</p> <p>【社会】（1年）全項目で平均正答率の4～5ポイント上回る結果となっている。確実な基礎をもとに<u>資料の読み取ることやその活用</u>が課題である。（2年）基礎的な知識理解とともに資料を読み取る力や活用する力が定着してきている。（3年）正答率が高いものの、<u>興味・関心の項目では下回っており、それを高める取り組みを積極的に取り入れ基礎の定着を図る。</u></p> <p>【数学】（1年）基礎に対し、活用問題には課題がみられる結果となった。<u>情報を読み取り、具体的に説明する能力の育成が必要。</u>（2年）「<u>読み取る力</u>」や「<u>数学的に説明する力</u>」がやや低い項目であり、重点的に指導する必要がある。（3年）全正答率が約10%上回った。<u>問題文を正しく読み取り、求めたい数量を導くために日常の事象を数学的な事象へとつなげる。</u></p> <p>【理科】（1年）物理・化学分野で論理的に思考ができる。<u>抽象的な現象を論理的に考えさせる問題を解く練習が必要。</u>（2年）物質の性質を数的量的関係としての捉えが弱い。<u>基礎的知識の定着はあり、数的思考を個人やグループ活動で伸ばす。</u>（3年）「活用」の項目が高かったのは、ジクソー活動の手法の成果と思われる。<u>科学的な文章で表現する力が身に付ける</u></p> <p>【英語】（1年）好結果は、アクティブなリスニングとスピーキングの指導の成果であると考えられる。1年生が使える英語を身に着けている。（2年）口頭においても筆記においても自分の考えを英文で表すことに躊躇がなくなっていると思われる。（3年）聞く・読む・書くと区正答率を大きく上回り高いレベルにあるが、<u>場面に応じて書く英作文は、目標値を下回っており今後の課題である。</u></p>	1年	1年
		国 73.4 社 53.9	国 77.7 社 59.2
		数 66.5 理 55.2	数 75.0 理 61.0
		英 58.2	英 66.7
		2年	2年
		国 67.5 社 46.3	国 73.9 社 56.0
		数 55.6 理 47.4	数 68.4 理 57.0
		英 61.2	英 69.5
		3年	3年
		国 70.3 社 48.2	国 74.5 社 52.1
		数 58.1 理 54.6	数 68.5 理 57.8
		英 64.9	英 71.1

都 学 力 調 査 中 2	<p>【国語】A問題では、都の正答率を大きく上回った。課題として関心・意欲・態度を大幅に上げ、読む能力を伸ばす必要がある。B問題では、文章の読み取りを習慣化して行っていく必要がある。</p> <p>【社会】都の回答率を上回っているものの、A問題では「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」がまだまだ低い。「<u>解決する力</u>」「<u>読み取る力</u>」が課題である。</p> <p>【数学】正答率が上回ったものが多いが、A問題では「関心・意欲・態度」、B問題では「読み取る力」が弱いことが課題。比較・関連付けて読み取る力、意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力が弱い。【理科】特に高いのが、「知識・理解」と「解決する力」である。基礎学力の定着のため、アクティブ・ラーニングによる授業改善が良い結果に結びついた。表やグラフなどから情報を読み取る力の強化が課題。【英語】A：普段のコミュニケーション的な授業によって、相手の話を聞き、積極的に応答する姿勢が見られた。B問題では、「書くこと」では、<u>自分のことを表現するための書く活動</u>を十分にとっていく必要がある。</p>	都	自校
		2年	2年
		国語 72.7	国語 76.2
		社会 56.5	社会 59.5
		数学 54.2	数学 57.3
		理科 56.5	理科 61.3
		英語 62.9	英語 67.8
全 国 学 力 調 査 中 3	<p>【国語】A問題：全体としては全国平均を上回っている。漢字の書き取りが弱いこともあり、「言語についての知識理解技能」が全国平均正答率に0.8ポイント達していない。また、短答式回答の平均正答率も0.2ポイント達していない。古文に関する知識についての正答率も0.8ポイント低い。</p> <p>B問題：東京都・全国平均を見ると、活用力はあるという結果が得られた。</p> <p>【数学】A問題：数学Aの問題では、「学習指導要領の領域」においての正答率は4つの領域全てにおいて全国平均よりも5%上回っている。数値の低い設問では、既習事項の復習をおこない、知識の定着を図る。</p> <p>数学B：全ての項目において正答率が全国平均よりも上回った。「与えられた表やグラフからの必要な情報の読み取り」「問題場面における考察の対象を明確な捉え」は、高い正答率だった。「<u>2つの図形の関係説明</u>」や「<u>事柄が成り立つ理由の説明</u>」に課題がある。今後は各学年(特に2年次)における「<u>証明</u>」や「<u>言葉をつかった説明</u>」の単元で丁寧な学習指導を行うことが必要である。</p>	全 国	自 校
		3年	3年
		国語A 77.4	国語A 79
		国語B 72.2	国語B 76
		数学A 64.6	数学A 71
		数学B 48.1	数学B 53